

浪江の

こころ通信

・第75号・



平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年3月31日に「帰還困難区域」を除き解除されましたが、多くの浪江町民は福島県内外に分散避難をしています。長期化する避難生活、先の見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるため一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※)が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のこころ通信」が編集・発行されています。

この“浪江のこころプロジェクト”は、町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこだわりを発信・共有しようとするものです。

※一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、東北圏(7県)の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

つながろう、浪江のこころ

特別編

故郷を遠く離れて生活を続けている中学生・高校生・大学生の皆さんから、浪江町で過ごした日々の思い出や最近の出来事を聞かせていただくため、原稿募集を行いました。

応募いただいた原稿をご紹介します。

「浪江のこころ通信／第75号」への感想をお寄せください。

【連絡先】〒979-1592

双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2

「浪江のこころ通信」宛

FAX.0240(34)4593





本田 菜々さん(権現堂)

取材者：NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 鍋嶋
取材日：7月16日

夢は東北の高校に女子野球部を創設すること



▲自宅前で、お父さんと菜々さん

小学校6年生の時から硬式野球を始めた菜々さん。女子硬式野球の強豪校への進学を機に、家族で埼玉県加須市に転居しました。自分のがんばりが浪江町の人たちの元気につながればと練習に励む日々です。



▲ユニフォーム姿の菜々さん

◆「マドンナジャパン」が憧れ
私は今、埼玉県加須市にある平成国際大学スポーツ健康学部で学びながら硬式野球部に所属し、毎日練習に励んでいます。平成国際大学の女子野球チームは、全国で1、2位を争う強豪校で部員は41人。今は、DH(指名打者)で試合に出ています。ポジションは、センタースタイルです。現在、女子硬式野球は、中学、高校、大学のチームや企業のクラブチームが関東と関西地域を中心に30数チームあり、年間を通して様々な大会が開催されています。全国の選手から選抜された「マドンナジャパン」は、女子野球ワールドカップを5連覇、世界ナンバー1の力を持っています。大学の先輩には日本代表「マドンナ

ジャパン」は、女子野球ワールドカップを5連覇、世界ナンバー1の力を持っています。大学の先輩には日本代表「マドンナ

ジャパン」として活躍する選手もいて、私の憧れです。
◆父や母の応援に支えられ
我が家は、父は町の代表として市町村対抗野球に出場、3年前には、「オールいわきクラブ」のメンバーとして西武ドームでプレーしました。格好良かったです。兄や姉も小・中・高校時代に、野球部、ソフトボール部に所属していた野球一家です。
震災の時、私は小学校を卒業したばかりで、硬式野球を始めた頃でした。震災で、所属していた相双中央シニアのメンバーは避難でばらばらになり、私は福島シニアに入部しました。メンバーは40人、女子は私一人でした。野球が好きでしたから、男子ばかりの中にも苦になりませんでした。
震災前から、高校は野球の強豪校に進学しようと決めていました。震災後、希望どおり花咲徳栄高校に入学することができ、家族そろって、埼玉に転居しました。父は職場が福島なので、ウイークデーは職場近くの会社の社宅に居て、週末になると埼玉の家に帰ってくるという生活です。家族の理解と応援があるので、自分の好きな道に進むことができていると思います。

◆夢は女子野球部の創設
大学に自転車通学、月曜日以外は4コマの授業の後、3、4時間野球の練習をするという毎日です。大学に女子野球部の専用グラウンドはなく、男子野球部と調整したり、近くの施設のグラウンドを借りて練習をしています。練習は厳しいですが、高校時代の練習のほうが、もっとしんどかったです。好きなことを続けているので、苦労はないです。大学に入ってから、1年生でも試合に出られてうれしかったです。忙しい中でも、父も母も試合を見に来てくれます。ありがたいです。
私の夢は、日本代表「マドンナジャパン」です。将来は、女子プロ野球を経験してから、教員になりたいと思っています。東北の高校には、女子野球部がありません。私は、家族の理解があって、野球を続けることができているので、ほとんどの人が途中で諦めていると思います。だから私は、東北の高校に女子野球部を創設できたらと思います。
小学校の時には、おじいちゃんとおばあちゃんに「アジ釣り」に出かけたのを覚えています。女子野球で頑張っていて、浪江の人たちに元気を送ることができたらと思います。応援してください。

- 本田菜々さんプロフィール
- 小学校4年生より6年生
- 刈野ジャガーズ所属
- 中学校1年生より3年生
- 相双中央シニア、福島シニア、女子プロ野球ユースチーム(CJユアエンジェル)所属
- 高校 花咲徳栄高校
- 大学 平成国際大学



福島西高校2年 石井あかねさん(棚塩)

今回、平成23年12月号で取材させていただいた石井さんから、取材以降の気持ちの変化や近況をお知らせいただきました。

将来は「人を助ける仕事」に就きたい。そして、これまで支えてくれた人への恩返しをしていきたい。



▲私は陸上部で、妹・弟も中学校の特設駅伝部で頑張っています。左から、あかねさん、あゆみさん(妹)、京輔さん(弟)

私が前回、こころ通信に掲載された小学5年生の頃は、まだ震災の爪痕が大きく残っている時期でした。避難場所であまりやっていたのか不安な気持ち一杯でしたが、少しずつ新しい生活に慣れていき、不安な気持ちも少なくなり、普通に生活を送れるようになっていきました。その時は、将来なりたい職業として、「人を助ける仕事」と答えており、今でもそのことは変わっていません。

その後、私は中学生になり、部活動はソフトボール部に入部しました。幾世橋小学校4年生の時にソフトボールを経験し、とても楽しかった思い出がたくさんあったので、またソフトボールをすることができ、とてもうれしかったです。中学2年生になってからは、特設陸上部と駅伝部にも入り、練習はとても大変でしたが、より充実した中学校生活を送ることができました。高校は、福島西高校に進学しました。部活動は、陸上部に入りました。走りにより磨きがかかるように日々努力しています。私の高校での目標は、勉強と部活動の両立です。理由は、将来の夢に少しでも近づけるよう大学に進学したいと思っていることと、そして、充実した高校生活を送れるように部活動も頑張りたいからです。
震災から2017年で6年が経ち、震災直後の状況とは随分変わり、新しい生活場所である福島市でも環境に慣れ、震災前とほとんど変わらない日常生活を送っていますが、浪江町の友達とはなかなか会うことができず、寂しい気持ちもあります。しかし、これから先、成人式などで友達に会う機会があると思うので、その時まで楽しみはとっておきたいと思っています。



▲たまに時間が合えば3人で走っています。

震災によって変わってしまったことがたくさんありましたが、もう一度自分を見つめ直し、いろいろな可能性に挑戦していきたいと思っています。そして、もう少し年月が経ち、浪江に完全に戻れるようになったら、今まで自分を支えてくださった人たちに少しでも恩返しができるように頑張りたいと思います。それまでは、家族と協力して今の生活を大切に、喜びや悲しみを共有できるようにしたいと思っています。
最後に、今までいろいろな面で支えてくださいました皆さま、ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願ひします。